

表紙裏(新しき世界へ 1968年2月号)

生命の真理、健康の真理、食養は実に簡単です。何人にも分り、何人にも何処でも実行出来ることです。

こんな簡単な事が他に又とありましようか?もし健康に楽しく生きるということが、複雑極まることであつたら、学者でない我々は病気ばかりせねばならず、金持でない人は一生病苦に悩まされるばかりでしょう。神様はそんな不公平な世界をお作りにはなりません。

我々は大自然、神様を何時でも、何処でも念うことが出来ます。我々の精神は直観する。直観とは、全体を超論理的に把握するものである。それは全体それ目身なのである。我々の肉体は部分でしかないけれど、その部分は全体によって即ち大自然によって生きてるのであり、その大自然全体が我々の精神であり、直観目証なのである。

神を知ること、大自然を憶うこと、全体を認めることのみが人間に与えられた最高の智慧である。この最上の智慧、この畢竟知を養う唯一無上の方法が我が食養道である。

(人世読本より)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください